

# 「活動するミュージアム」としての大阪

～これからの文化によるまちづくりとは？～

主宰：大阪ミュージアム文化都市研究会

協力：應典院

2001年の大阪は、大規模な文化装置の誕生が相次いだが、これから文化によるまちづくりを進めるには、どんな視点や手法があるだろうか。

「大阪ミュージアム文化都市研究会」では、エコミュージアムという概念や動きを意識しつつ、大阪を「活動するミュージアム」として捉えなおすことで、文化都市として、新たな都市構想や仕掛けの提案ができるのではないかと考え、平成13年春より、研究活動に取り組んでいる。そのプロセスとして、多様に点在する大阪の文化的コンテンツを、メンバーの独断とこだわりによって抽出してみた。多くの方により議論が喚起されることを願って、とり急ぎ1冊にまとめたものが『博物的新大阪文化名鑑』である。

本シンポジウムは、このレポートで紹介した事象を含め、大阪の歴史的文化的遺産を、いかに今に再生させ、新たなシナリオにより魅力を倍増できるか、大阪の可能性を模索するという趣旨で、公開研究会という位置付けで開催するものである。

第一部は、新しいまち文化創造を担う事例の紹介。特に既存の文化資源の魅力を掘り起こし再編した活動に焦点をあててみた。第二部では、新しい地域ぐるみ博物館としての大阪の可能性について、各々の立場で活躍されている方々のディスカッションによって、ヒントが得られるものと期待したい。

また、第三部として本日ご参加いただいた方々による交流の場を設け、今後の発展的展開へとつなげる場としたい。本会場である「應典院」の場の力も感じていただけるはずである。研究会活動へのご指導もいただくと幸いです。

ぜひ最後までおつきあいのほど、お願いいたします。

## 大阪ミュージアム文化都市研究会

橋爪紳也氏（大阪市立大学大学院文学研究科助教授）を主査・リーダーとし、大阪の歴史や文化、魅力ある場づくりに関与する、行政マン、民間企業社員、博物館学芸員、フリーエディターなど9名で構成。

<メンバー>

大西二州（大林組本店） 北辻稔（大阪都市協会）  
長谷川里江（乃村工藝社）原章（編集工房レイヴン）  
船越幹央（大阪歴史博物館）  
山納洋（扇町ミュージアムスクエア）  
吉村美貴（吉村企画室）

主査 橋爪紳也（大阪市立大学大学院助教授）

主宰事務局 栗本智代（大阪ガスエネルギー・文化研究所）

# プログラム

## <第一部>

ご挨拶にかえて（シンポジウムの趣旨説明、主宰研究会による問題提起）

大阪ガス（株）エネルギー・文化研究所 栗本智代

### 新たな街文化創造ムーブメント（活動事例紹介）

研究会では、さまざまなスタイルで、まちに関わり元気の種まきをしている個人・団体に出会う機会を得た。芸術文化の育成と発信、歴史や住いへのこだわり、商業の活用など、既存の文化資源の魅力を掘り起こし再編した、各々の遊び心や活動そのものが、新しい街の文化創造の芽生えであると捉えたい。

赤レンガ倉庫からの文化芸術発信<アーツアポリア>

（財）大阪都市協会文化事業部次長 大阪市立芸術創造館館長 乾 正一  
大阪市アーツアポリア事業実行委員会事務局マネージャー 中西美穂

パフォーマンスとしての町屋改装から、再生サロンとしての実験を続ける

<SALON DE AMANTO（天人）> パフォーマー JUN

ライフスタイル提案型の街づくりプロデュース<西区京町堀～新町での事例>

オーブ株式会社代表取締役 吉川 稔

からほり倶楽部～空堀商店街限界長屋再生プロジェクト～

からほり倶楽部代表（建築家） 六波羅雅一

平野郷～まちと歴史と人とのまじわり～

平野の町づくりを考える会事務局 川口良仁

トーク「大阪ミュージアム文化都市研究会」をはじめとする、地域への取り組み

大阪市立大学大学院文学研究科 助教授 橋爪紳也  
大阪ガスエネルギー・文化研究所 所長 安達純

## <第二部>

パネルディスカッション

「新しい地域ぐるみ博物館～都市型エコミュージアム～としての可能性」

パネリスト

大原一興 横浜国立大学大学院助教授  
北村 敏 大田区立郷土博物館学芸員  
川口良仁 平野の町づくりを考える会事務局 全興寺住職

コーディネーター 橋爪紳也 大阪市立大学大学院助教授

## <第三部> 交流会

進行運営、制作担当、協力 株式会社シー・エヌ

## <シンポジウム出席者プロフィール(敬称略)>

### 乾 正一

#### 大阪都市協会文化事業部次長 / 大阪市立芸術創造館館長

1982年大阪市に入る。1995年より、大阪市市民局文化振興課において芸術創造館構想を担当、2000年館オープンに伴い財団法人都市協会に派遣、館長就任。その間、1997年から2001年まで「大阪演劇祭」事務局を担当。現アーツアポリア事業については、2000年、前身である「築港赤レンガ倉庫活性化事業」から事務局担当。

### 中西美穂

#### 大阪市文化振興のための懇話会研究員 /

#### 大阪市アーツアポリア事業実行委員会事務局マネージャー

1968年大阪生まれ。京都精華大学美術学部で立体造形を学ぶ。中学校美術科の非常勤講師、現代美術ギャラリー勤務、在パリの貿易事務所スタッフ、バックパッカー、美術館アルバイト等を経て現職。フリーのアートコーディネーターとしても展覧会企画多数。空間における身体の距離感覚とその社会性に興味を抱いている。

### JUN

#### パフォーマー。

大阪市西区堀江生まれ、堀江育ち。スポーツインストラクターを経てスタントマンとしても活動。大道芸、パントマイムを中心に綱渡りやアクロバットなど、パフォーマンスなどを行いながらモンゴル、インド、中国などを旅する。現在は俳優、舞踏家としても活動している。2001年5月から7月まで大阪市北区中崎町の築百年の古い町屋を借りて「空き屋再生パフォーマンス」として改装、「SALON DE AManTO天人(あまんと)」という名のサロンとして「日本発の文化創造」をテーマに実験を続けている。

ミニFM放送局「FM AManTO」 子供から大人まで参加できる無料の学校「人類大学」  
地域の祭り採掘、太鼓グループ「天打」 粗大ゴミマーケット  
28日周期で作品を発表する「星の市場」 教育的経済学による地域通貨「MANTOマネー」  
経済のための芸術「ART」から、EARTHのための芸術「EART」の啓蒙 など。

### 吉川 稔

#### オーブ株式会社 代表取締役

神戸大学 農学部畜産学科卒業、1989年 住友信託銀行入社後、神戸ファッションマートへ出向。1995年より株式会社オッジ・インターナショナル(婦人服アパレルメーカー)、2000年オーブ株式会社 代表取締役就任。投資対象先(ライフスタイル産業分野)の調査・発掘、投資先の事業戦略立案、事業インキュベーションを担当。2002年 有限会社バックステージ 取締役就任。

オーブ(株)は、ライフスタイル産業から顧客(主に女性マーケット)の笑顔が見える「空間」「商品」「ブランド」の創造力を有する小売業態に特化した投資育成会社。投資先企業からの要請に加え、投資家を顧客として捉えたファンド組成により、投資後の価値を高めるべく、投資先企業には深く関与するスタイルを取る。(2001年 ファンド投資先企業のファッションセレクトショップ 株式会社ルシェルブルーに吉川が取締役就任。)その他投資家のニーズを探りながら、「ライフスタイル提案型街作り投資案件プロデュース」も模索中。

## 六波羅雅一

### からほり倶楽部代表 六波羅真建築研究所代表

1961年大阪市生、大阪デザイナー学院建築デザイン科卒業後、松野八郎総合建築設計事務所を経て1988年六波羅真建築研究室開設。2001年空堀商店街界隈長屋再生プロジェクト発足。谷町6丁目の長屋を自ら改装し、1階は建築事務所、2階は自宅として居住している。最近の主な作品は、くいしん房楽人、六波羅真建築研究室 空堀長屋改装 self-build (2002)、空堀亭 下町風フランス料理店、茶谷邸 ウッドルーバーのある住宅、植田邸 ライトコートのある住宅 (2001) 他多数。

## 安達 純

### 大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所所長

1972年4月大阪ガス株式会社入社以降、営業部門、人事部門、企画・調査部門を経験。(財)日本エネルギー経済研究所に出向後、経営調査部にて、エネルギー・環境・都市など広い範囲で経営陣の活動をサポート。2000年4月より現職。

企業人の立場で、そして企業人の枠を少しはみ出すことを、取り組みの旨としている。専門はエネルギー・環境問題。都市の分野は、歩き回ることが好きな実践・実感派。

## 大原一興

### 横浜国立大学大学院システムの創生部門(建築学教室)

日本エコミュージアム研究会理事・事務局長として、世界における事例をもとに、日本におけるまちづくりの原点としてもその必要性和意義を研究している。

主な著書に「エコミュージアムへの旅」(鹿島出版社)「エコミュージアム 理念と活動」(共編 牧野出版社)「医療福祉学の理論」(分担執筆 中央法規出版)などがある

## 北村 敏

### 東京都大田区立郷土博物館 学芸員

1979年より現職。学問分野に囚われず、地域の視点で博物館業務に携わる。

近年企画展として、「工場まちの探検ガイド」(94) 大田区政50年 まち・暮らし・

区政の歩み」(97)「芹沢銈介作品展」(98)「空の玄関・羽田空港70年」(00)などがある。

## 川口良仁

### 平野の町づくりを考える会事務局 全興寺住職

大阪市平野区において、1980年「平野の町づくりを考える会」を発足、南海平野線駅舎の保存運動、含翠堂講座の開講、平野連歌の再興、平野昔話や写真集の出版、御田植神事保存会の補足、平野酒・平野飴・平野こんにゃくの復興などの活動を行い、1992年「町ぐるみ博物館」をスタートさせた。現在は15館に増えている。

## 橋爪紳也

### 大阪市立大学大学院文学研究科アジア都市文化学教室助教授

工学博士、建築史・都市文化論の分野にあって、遊楽空間論、遊園地研究、ツーリストシティなど新領域を拓いている。京都市精華大学人文学部助教授、同大学創造研究所所長を経て現職。大阪生まれ。

主な著書に「祝祭の帝国」(講談社)「人生は博覧会日本ランカイ屋列伝」(晶文社)

「大阪モダン」(NTT出版)「化物屋敷」(中公新書)「明治の迷宮都市」(平凡社)他多数。